

教育班だより

10月号

気仙沼教育事務所HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mskyoz/>

【小・中学校教育の指導の重点】

- 重点1 感性豊かな心とたくましい心身の育成
- 重点2 確かな学力の育成
- 重点3 家庭・地域と連携・協働した
誰一人取り残さない学校づくりの推進

10月に入り、夏の名残もありますが、ますます秋めいてきました。猛暑で元気がなくなっていた草花が生き生きとしている様子は、どこかほっとさせられます。

さて、先月行われた初任者研修（1年目）・5年経験者研修のグループ協議では、5年研の先生方が全体をリードしながら話し合いを進める様子が見られました。その姿を初任者の先生方は、「あこがれ」として見ていたのではないのでしょうか。

研修会では「あこがれ」の先輩の姿を追いかけるように、「謙虚」に学ぶ姿が随所に見られました。今後とも先生方の成長を支援できる研修になるよう努めていきます。

副参事（副班長・指導主事）櫻井 直人

今月の花「金木犀」



花言葉「謙虚」

お知らせ 【11月～12月の教育事務所主催の行事、研修会等】

日にち	内 容	開催場所
11/6(木)	地域別防災主任研修会	気仙沼合同庁舎
11/11(火)	初任研(1年目)事務所研修③、中堅研実践研修③	南三陸町立戸倉小学校 気仙沼市立面瀬中学校
12/5(金)	気仙沼管内健康づくり研修会 (学校・地域保健連携推進事業・地域の食育推進事業及び子どもの健康なからだづくり事業)	気仙沼合同庁舎
12/9(火)	初任研(1年目)事務所研修④	気仙沼合同庁舎
12/17(水)	問題行動等対策推進協議会② (児童生徒支援教員及び心のケア支援員配置事業)	気仙沼合同庁舎
12/25(木)	管理職等研修会	気仙沼合同庁舎

11月1日「みやぎ教育の日」11月は「みやぎ教育月間」

明日のみやぎを担う子供たちを育むため、家庭、地域、学校が連携して、教育の充実を図ることが大切です。そういった機会を宮城県民に意識してもらえるように、平成17年4月1日に「みやぎ教育の日を定める条例」が施行されました。子供を取り巻く教育環境をよりよくするために、何が大切なのか、何ができるのかを考えるきっかけにいただければと思います。

気仙沼教育事務所としては、管内の幼稚園及び小・中学校で作成いただいた「輝く学校・園」を、気仙沼合同庁舎1階ロビーに展示します。

31の学校・園の特色や取組を知っていただく機会にしたいと思います。先生方も、庁舎を訪れた折にはぜひ御覧ください。

～気仙沼教育事務所管内『輝く学校・園』の展示～

◆期間 11月4日(火)～11月28日(金)

◆時間 8:30～17:15

◆場所 気仙沼合同庁舎1階ロビー

「幼児教育ポータルサイト」 <https://www.pref.miyagi.jp/site/youjikyoku-portal-site/>

「幼稚園や保育所との連携って何をしたらいいのかわからない」「幼児教育ってどんなものかわからない」「研修の情報を知りたい」という声に役立ちます。



仲間と共に難問に挑戦！算数チャレンジ大会2025 本選

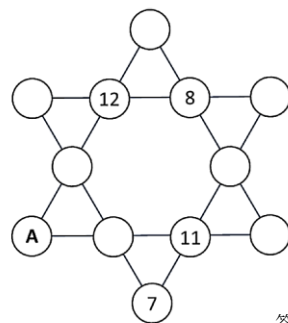
9月20日（土）、総合教育センターにて「算数チャレンジ大会2025」の本選が開催され、気仙沼管内から以下の3チームが出場しました。

気仙沼市立気仙沼小学校「算チャレチーム」
気仙沼市立九条小学校「ちーむぷっちょ」
南三陸町立戸倉小学校「ワーク」

本選では、チームの仲間と協力し、各学校で培ってきた思考力を駆使して、粘り強く難問に挑みました。最後まで諦めずに頑張り抜いた選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。

→子供たちがチャレンジした問題の一つを紹介します。

【本選問題4】下の図の○の中に、1から12までの数字を1つずつ入れ、直線上にならんだ4つの○の中の数字の和がすべて26になるようにします。このとき、Aに入る数字を求めなさい。ただし、1から12までの数字のうち、すでに書き込まれている数字を移動してはいけません。



答えは 下部に

9/16（火） 初任者研修（1年目）・5年経験者研修（教育事務所研修②）

9月16日（火）に気仙沼市立大谷小学校・大谷中学校を会場に、初任者研修（1年目）と5年経験者研修の合同研修会が開催されました。

小学校算数科と中学校数学科、保健体育科の授業参観後、5つのグループに分かれて熱心な研究協議が行われました。協議では、司会をした5年経験者の先生方が全体をリードしながら話し合いを進め、活発な意見交換がなされました。

参加者アンケートからは、今後の授業実践に向けた多くの収穫があったことがうかがえます。

〈初任者の先生〉

「児童が主体となって授業を進めている姿が印象的だった。自分も児童主体の授業に少しでも近づきたい。」

「机間指導の中で、手が止まっている生徒に対して効果的な声掛けを行っていた。」

「中学校の授業で、流れを明確にするためにスクリーンで示したり、手本は動画で配ったりするなど、すぐに実践できることが多くあった。」

「児童に気付きを与えるための問い掛けや繰り返しなど、多くの学びを得ることができた。」

といった感想が寄せられ、先輩教員の指導から多くを学ぼうとする意欲が感じられました。

〈5年経験者の先生〉

「児童主体の学習展開、それに伴う教師の立ち回りが参考になった。」

「中学校の授業参観自体が、6年担任の立場として貴重で、勉強になった。」

「中学校との接続を視野に入れながら実践に生かしていきたい。」

と、異校種の授業を参観することの意義を再確認する声が上がりました。

さらに、

「初任研の先生方と協議をしたことで、当たり前と思っていたことが大切なことだと改めて実感した。」

「初任の先生と研究協議や情報交換を行うことで中堅教諭としての意識をさらに高めることができた。」

といった意見もあり、初任者との交流が、自身の指導を見つめ直す良い機会となったことが分かりました。

今回の研修で得た新たな視点や気付きを、各校での教育実践に生かしていくことが期待されます。事前準備や当日の運営に至るまで御協力をいただいた大谷小学校、大谷中学校の先生方に感謝いたします。

